

天然資源の開発利用に関する日米会議、水産増養殖部会、オレ回合同会議
共同声明

天然資源の開発利用に関する日米会議の水産増養殖部会オレ回合同会議は、10月18日、17日および29日に東京において開催された。会議は役員長吉川厚博士によって開会し、農林水産技術会議事務局長加賀山国雄氏の歓迎の挨拶に次いで、東京アメリカ大使館科学技術官ロバート・W・ハイアット博士の挨拶があった。また、科学技術庁振興司国際課長嶋原良樹氏により部会活動について有益な提言がなされた。この後、吉川厚博士とウィリアム・N・シヨウ氏がこの会議の議長に選出され、議事が進行した。

この会議において、日米部会員より、両国の水産増養殖の現状に関する総合的な報告が行われた。これらの報告は、10月20日から28日に亘って行なわれた現地視察旅行期間中を通じて行なわれた詳細な討議に大変役立つものであった。

この会議において、研究者の交流と文献の交換に関する基本的な討議が話し合われた。即ち、オレ回目の研究者の交流は1972年に開始するよう努力する。文献の交換は早速に開始すべきである。また、両国の研究者による協同調査のための討議作りが始められた。これらの討議は、数か月以内に整理することになった。

養魚の雰囲気のほかで充分な討議が行なわれた結果、各種の水産生物の増養殖技術の芸術とまで云える状態や、日米両国のかかえている問題点が明らかにされた。即ち、日米両国が直面している問題は、水質問題、機械化、病気、寄生虫、食害、増養殖適地の開発と人工飼料等である。日本の水産増養殖業は著るしい発展を遂げ、その技術はすばらしいものがあるが、現在アメリカに於て行なわれている多くの特別研究プロジェクトのもたらす成果は、今後の日本の増養殖技術の進歩に大きく貢献するであろう。本部会は、日米両国の水産増養殖関係者の交流が直接、両国の利益につながることを認めあった。

次回の水産増養殖部会の会合は、1972年の後半に、アメリカにおいて行なわれる予定である

昭和46年10月29日、於東京

